

100年史の刊行にあたって

神戸市長 久元 喜造

神戸市交通局の前身である電気局が大正6(1917)年に創設されてから、100年が過ぎました。この間、神戸市の電気事業、交通事業の発展に尽力された多くの方々に深く敬意を表しますとともに、市バス・市営地下鉄をご利用くださる皆様に心から感謝を申し上げます。

100年の長きに亘り、神戸市の電気・交通事業は、市内の家庭を明るい電気の光で照らし、あるいは身近で便利な移動手段を提供することによって、市民の暮らしを支え、神戸の産業の近代化と市域拡大に大きな役割を果たしました。また、西北神の開発や都心部の市街地再開発に不可欠な都市装置として機能するなど、今日まで神戸の発展に大きく貢献してきました。

たび重なる自然災害や空襲で多くを失い、あるいは戦中戦後の物資の欠乏のなかで苦心を重ねるなど、100年間の道程は平坦なものではありませんでしたが、それでも、まちの復興に貢献し、社会情勢の変化に対応し続けて、市の交通事業は、市民そして神戸のまちとともに、着実にその歩みを重ねてきました。



今日、少子・高齢化が進み、わが国は本格的な人口減少の時代に入りました。神戸市も例外ではなく、若年人口の流出など厳しい状況に直面しています。

情報通信分野における技術開発やその利用拡大ともあいまって、人々の働き方や暮らし、神戸の産業構造は急速に変化しています。

限られた資源を有効に活用し、変わりゆく市民ニーズと経済的・社会的な要請に応え、地域ごとの特長を生かしながら均衡のとれた都市の発展を続けていくためには、将来の神戸のあるべき姿をしっかりと見定め、的確にまちづくりを進めていかなければなりません。

公共交通の分野でも、神戸の経済・社会の状況を踏まえたうえで、それぞれの地域の利用者のニーズにきめ細かく応え、低廉なコストで良質な輸送サービスを提供するためには、柔軟にその形を変えていく必要があります。

神戸市の交通事業は、先達の事績に学び、これからも公共セクターとしての役割を常に認識しながら、未来に向かって歩み続けてまいります。

ごあいさつ

神戸市交通事業管理者 岸田 泰幸

大正6(1917)年に設置された「神戸市電気局」が、未開通路線の早期開通を望む市民の声に応え、市電の前身である神戸電気株式会社の事業を継承し、市営として発電・配電及び市街地路面電車事業を行ったのが神戸市営交通事業のスタートでした。

神戸市電は、市民に移動の利便を提供し、東西に長い神戸の市街地の要所を結びました。その後、神戸のまちの発展や社会情勢の変遷にあわせ、昭和5(1930)年に市バスの運行を開始いたしました。市バスは、住宅地と鉄道の駅、あるいは病院や学校などを結ぶ最も身近な交通手段として、今日も多くのお客様にご利用いただいております。モータリゼーションの進展のなかで、市電は昭和46(1971)年にその役目を終えることとなりましたが、昭和52(1977)年には、西神地域と都心部とを結ぶ地下鉄西神・山手線が、まず名谷-新長田間で開業いたしました。平成13(2001)年には、兵庫・長田区南部のインナーシティ活性化を図るため、三宮と新長田とを結ぶ海岸線が開業するなど、市営交通は、神戸のまちとともに発展を続けてまいりました。



いま、神戸市では、魅力に溢れ、いきいきと活気が漲り、世代を超えて誰もがいつまでも安心して暮らすことができるまちを目指して、様々な施策に取り組んでいます。そうしたまちづくりの一環として、市営交通におきましても、安全運行の確保を最優先課題に位置づけ全力で取り組むとともに、神戸にお住まいの方、あるいは神戸を訪れる方、どなたにも安心して快適にご利用いただけるようサービスの充実に努めてまいります。時代の要請に応えながら、神戸の公共交通体系の一翼を担い、末永く市民のくらしとまちの発展に貢献できるよう努力を重ねてまいります。

どうぞこれからも神戸市バス・神戸市営地下鉄をご利用くださいますようお願い申し上げます。

末尾になりましたが、神戸市電気局の創設に寄与された方々、100年に亘る神戸市交通事業の発展に尽力された多くの先輩諸兄・関係各位に深く敬意を表しますとともに、神戸市営交通をご利用くださるすべてのお客様に心から感謝を申し上げます。